



内山美穂子 議員
(拓政会)



問 緑豊かな環境は様々な役割を果たしているが、社会情勢の変化や樹木の成長とともに、リスクやコストが増大し、その管理も協働体制を担う町内会の高齢化などにより追いついていかなくなるのが懸念される。具体的な施策と実効性のある協働体制の構築について伺う。

(1) 街路樹や植樹ますなど緑の管理体制の現状と課題は。

(2) 長期的な視野に立ち持続可能な管理体制をどう構築していくか。

町長 **(1)** 道路パトロールや道路利用者等からの情報提供を基に、道路交通への支障や危険の未然防止に努めている。道路パトロールでは、街路樹の生育不良や枯れ木、枯れ枝、ぶら下がり枝など、歩行者や道路標識の視認性に対する影響の確認に努めている。また、道路利用者から、倒木発生等により交通に支障となる情報提供や周辺住民からは病害虫の情報、枯れ木等の情報が寄せられる。街路樹の

問 将来を見据えた管理体制と環境美化を

答 老木化した街路樹などを地域特性に合った形で計画的に更新する必要がある

剪定は、交通安全上危険性が高い箇所を優先的に実施している。このほか、一部の町道や道道、国道では、地域住民による花の植栽や除草作業を実施していただいている。落ち葉の清掃は、沿道や周辺にお住まいの皆さんに協力をいただき実施しており、配布したボランティアシールをごみ袋に貼っていただき町が回収している。課題としては、人件費や機械経費の上昇により維持管理費が増加傾向にあり、これからも増加していくと考えられる。危険のない範囲で、できる限り町民の皆さんの協力をいただきながら、効果的な維持管理を心掛けなければならない。

(2) 都市計画街路を中心に多くの街路樹を配置し、緑豊かな道路景観を形成しているが、今後も定期的な剪定が必要なか、次第に老木化していく街路樹が増加し、将来的には植え替える必要が生じ、今後計画的に更新を行う必要がある。その際、より街路樹の適性が高く、十勝の気候や環境に適した



街路樹（札内北町）

問 外国人労働者の増加に伴う多文化共生の考えは

答 町として果たすべき役割について研究したい



問 様々な業種で深刻な労働力不足が続く中、本年4月に改正入管難民法が施行され、町内でも技能実習生などの増加が明らかである。外国人労働者を住民として受け入れるための環境整備は、町民誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながる。多文化共

生社会の実現に向け以下伺う。
(1) 多文化共生に向けて町の考えと取組は。
(2) 地域コミュニティとの関わりは。
(3) 町内に住む外国人向けの町独自のサービスをを行う考えは。



町長 **(1)** 本町の取組としては、英語、韓国語、中国語に対応したホームページの多言語化を図るとともに、国際交流員による幼稚園での教育活動や小中学校での英語教育などコミュニケーション支援、町内中高生とオーストラリアのメルローズハイスクールとの相互ホームステイによる国際交流を通じた相互理解の促進に取り組んでいる。外国人の方が安心して働き、暮らすことができる環境づくりについて、受入れ先企業等からの聞き取りや先進事例を学び、町として果たすべき役割について研究したい。

(2)、**(3)** 今後、外国人の方が増えることも想定され、外国人と町民がお互いの文化を理解するための交流の在り方等について、他の自治体での課題や取組などを踏まえ、調査研究を進めるとともに、外国人の方のニーズに対応したサービスの在り方も必要に応じ検討しなければならぬ。